第２回検討委員会の主な意見（計画の構成、現状、第１章総論、第４章計画の推進）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 会議 | 主な意見 | 計画への反映 |
| 学校教育 | ・計画はわかりやすい（見える）ことが重要。  ・市民の理解を得るにはダイジェスト版の作成も。 | ＊計画全体で、記載の内容、重複記述を精査する。  ＊計画ダイジェスト版を作成する。（計画決定後）  第１章総論、第６節、２  （１）アンケート調査結果の概要  （２）団体意向調査結果の概要  ＊ポイントのみの記載とし、詳細は資料編とする。  第４章計画の推進  ＊内容を庁内で再検討する。 |
| 生涯学習 | ・学校教育、生涯学習、スポーツ、文化芸術と表記すると、生涯学習が他の３つと異なる分野に捉えられる。  ・市民は生涯学習の範疇を認識できていない（4分野とも生涯学習である）。  ・計画素案には、同じ内容が重複して記載されている。精査が必要。  ・計画推進には市長のリーダーシップが大事。  ・行政には、計画策定に携わった職員が計画推進も担う継続的な体制を望む（異動させない）。  ・推進体制に、計画を実行するために「職員研修」を加えてほしい。 |
| 生涯  スポーツ | ・第1章の背景と趣旨で、計画全体の方向がわかるようにする。  ・計画案は、本文と資料が混在している。資料等は後に掲載し、わかりやすくする。  ・計画案は、何をやろうとしているか明確にし、詳細については実行部隊がわかるようにする。  ・スポーツや運動に参加してもらうことが重要である。  ・スポーツの参加率に地域格差がある。ニュータウンの方が、参加率が高いと感じる。（※注　調査結果からは不明）  ・スポーツで子どもの参加が増えていない。学力重視で、部活などに参加していない。 |
| 文化芸術 | ・調査の考察にある「教職員像」の確立より、採用した立派な先生が力を発揮できる職場環境の整備充実を進める。  ・魅力ある市（住みよいまち→住みたいまち）のために、文化芸術は大きな要素になる。 |
| 事務局 | ・施策体系の「目標」から「主な取り組み」までは総合計画との整合を図っているので変更はできない。  ・右端の「取り組み概要」に印西市の特色がでるよう、市独自事業をダイナミックに入れていきたい。 |

第２回検討委員会の主な意見（第２章基本方針）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 会議 | 主な意見 | 計画への反映 |
| 学校教育 | ・子ども像、人間像を定めてはどうか。（←事務局。目標１が「子ども像」である）  ・司書の学校派遣など、学校と生涯学習の一層の連携を。  ・学校は授業コマ数が一杯で、新しいことを増やせないのが現状。  ・学校地域支援本部を超えるようなシステムを。 | 第１節  １　印西市の教育の基本理念  ２　印西市の教育の基本的な方針  ＊Ｐ．48は削除  ＊表題、文面、図票の修正  第４節  リーディング施策１  リーディング施策2  リーディング施策3  ＊表題、文面、図表の修正  ＊リーディング施策に向けた推進事業・新規事業の検討 |
| 生涯学習 | ・まちづくりは教育が重要になり、教育は生涯学習が基礎になる。  ・計画素案に必要なことは網羅されている。今後は市の独自色を出してほしい。表現も個性的なキャッチコピーを。（独自色の例　神奈川県大和市「60歳代を高齢者と言わない都市 やまと」宣言）  ・新住民が増え、人口構造が変わってきている。様々な能力を持つ新住民のリストアップをしてはどうか。  ・学習成果をまちづくりに活かしきれないのは国全体の課題でもある。  ・学習成果をまちづくりにつなげるような、学びフォーラム、市民大学をぜひ開催（開校）してほしい。  ・学びのコミュニティは、モデル地区をつくれば、市民もイメージしやすくなる。  ・基本理念はゴロが悪い。  ・基本方針の文と表の整合性がとれていない。 |
| 生涯  スポーツ | ・スポーツと文化・芸術などが、どう絡めばよいか。４つの分野が連携した施策を増やすことが必要。  ・地域のミニサークルを活用すると地域格差が解消されるのではないか。  ・長期スパンとしては、各年代のプログラムを準備するとよい。  ・短期的な事業としては、高齢者向け、地域格差対策、競技スポーツの強化などを検討するとよい。  ・総合型地域スポーツクラブを充実し、地域でのスポーツを進め、他の分野とも連携するとよい。  ・今まではスポーツだけに関わっていたが、この計画では、印西市の文化・歴史などもわかり、印西市の良さがわかる。将来は、スポーツだけでなく、他の分野でも関わっていきたい。  ・リーディング施策の事業の推進では、モデル的なものを検討して進めるとよい。  ・高齢者は、スポーツ施設に行くのが難しいので、地域のコミュニティで、スポーツに触れる機会をつくる。 |
| 文化芸術 | ・リーディング施策３について、「三位一体型プログラム」には「徳」が希薄である。  ・徳は、人と人のつながり、地域のつながりであり、人のために役立つ、ボランティアにもつながる。  ・基本方針１に、地域像を加味したい。例えば、「誇りと愛着を持てる地域」。  ・計画でいう「連携」をイメージできない（自分達の活動はどうすればいいのか）。 |

第２回検討委員会の主な意見（第３章分野別計画）

| 会議 | 主な意見 | 計画への反映 |
| --- | --- | --- |
| 学校教育 | ・学校教育では、特別支援教育が今後重要になる。  ・幼小中の連携をさらに進める。  ・学力調査、体力調査、いじめ発生数など、公表できる学校実態調査を踏まえることも必要である。  ・印西市の教育は、知・徳・体のバランスはよいが、学力はもっとつけられるという印象がある。  ・学力の底上げのためには、支援が必要である。  ・家庭の教育力が落ちており、園児の会話力が低下している。  ・幼稚園では、自分で考え、自分で行動する力を身に付けることを目標としている。 | 第3章全体  ＊現状と課題の修正。アンケート調査の結果、学校実態調査などの現状も加味し、課題を整理する。  ＊主な取り組みの方向の修正。検討委員会及び策定委員会の意見を踏まえ庁内で協議する。  ＊事業及び事業概要の修正。検討委員会及び策定委員会の意見を踏まえ庁内で協議する。 |
| 生涯学習 | ・計画は、これから実施することの記述をさらに充実させる。  ・学習をコーディネートする役割＝つなぎ役をつくっていくことが必要。  ・生涯学習と認識せず、活動している人は数値以上に多いと考えられるが、認知度向上のためにも情報提供の工夫は必要。 |
| 生涯  スポーツ | ・総合型地域スポーツクラブ（牧の原）では、高齢者の参加率が高く、生き生きと活動している。  ・子どもがチャレンジできるチャンス、子どもを中心として参加できるチャンス、お年寄が短期で参加できるチャンスという流れが、スポーツでは必要。  ・専門性を持ったスポーツの指導者を育成する。  ・スポーツをやっていない人を掘り起こすのか、やっている人の活動を充実するのか、検討の必要がある。  ・アンケートで、公園・広場・自宅でスポーツする人が多い。施設の拡充の是非も考える必要がある。  ・総合型地域スポーツクラブの主な事業が少ない（事業の充実が必要）。 |
| 文化芸術 | ・文化分野の施策が少ない。  ・小学校が廃校するため、そこで行われていた神楽が消滅する危険性がある。（拠点の消滅が文化の消滅につながる）  ・施設の活用、指導者リスト作成、地域の獅子舞や神楽などが集まるふるさと祭りの再開を（40年前に市芸術大会があった）。  ・佐倉市では、地域で神社を再興し、合わせて獅子頭（県最古の文化遺産）を復活した。この例でわかるように、やる気を出させる目標を提供し、地域の一体化を進めることが大切になる。  ・事業提案①ふるさと文化芸術事業（神楽などの振興、市の愛唱歌の創作、公開授業の拡充など）  ・事業提案②文化的な人材交流（身近な場所での既存団体などの活動への支援）  ・事業提案③発表の場の拠点整備（拠点を通じて認知度向上、活動のPR）  ・団体同士のタイアップ（連携）が重要になる。  ・絵画分野は担い手の高齢化が大きな課題。提案として、長期的な視点からは児童絵画展を復活し、後継者を育てること。短期的な視点からは絵画の指導者を確保すること。  ・文化芸術の振興は、「活動の充実」と「発表の場」が必須（セット）である。  ・団体も市も「育成」に力を入れること。  ・文化施設へのリピーターを促すために企画展やPRすること。  ・今、一所懸命やっている人や団体を、まずは支援することが重要（できる範囲から）。  ・一流を鑑賞する機会の拡充（子どもの頃に一流を体験させる）。  ・生涯学習ガイドのネット化（年1回のガイド更新から、スピーディーな情報提供へ）。  ・文化芸術団体への補助金の選択と集中を進める。 |